

Title	福沢書翰の新資料(年未詳二月二十三日付,内田晋斎宛)
Sub Title	
Author	会田, 倉吉(Aida, Kurakichi)
Publisher	三田史学会
Publication year	1968
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.41, No.2 (1968. 9) ,p.146(318)- 146(318)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	余白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680900-0146">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680900-0146</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福沢書翰の新資料（年未詳二月二十三日付、

内田晋斎宛）

去る（昭和四十二年）六月十七日、千葉県八千代市にお住まいの医学博士内田秀真氏の来訪をうけ、福沢諭吉の書翰一通を見せられた。『福沢諭吉全集』にも未収の新資料で、宛名は内田晋斎、日付は年がなく、二月二十三日とのみあつて、使者に持たせたものらしく巻封じになつてゐる。

内田宛の福沢の手紙は、別に通、明治四年二月十三日付のもの、右の全集の第十七卷（一一四―一五ページ）に載つていて、その註によると、「内田晋斎は名を嘉一といひ、上総の人、慶応四年閏四月十五日入門。書を能くし、福沢の初期の著訳書の版下は多くこの人が書いた。」と見られ、この新資料書翰の所蔵者である内田秀真氏は晋斎のご子孫とうかがつた。

また、全集所収の手紙は『啓蒙手習之文』に関するものだとしるされているが、この書翰もおそらく同種のものかと思われる。あるいは、全集所載のものにつづく督促の手紙といつてよいかも知れない。

左に、全文を紹介する。

（会田倉吉）

昨朝は参堂御用多之処御妨いたし奉恐縮

系紙さし上候間宜敷奉願候可相成ハ一日も早き方よ路し九少しハ御不出来ニ而も私方ハ不苦此段要用而已早々頓首

二月廿三日

内田様

福沢